

USER MANUAL JAPANESE

2020 CONTROL



CABRINHA 

A WARNING

安全のために必要な以下の内容に同意できない場合、この商品の使用を禁じます。また以下の内容は不定期に変更されることがあります。最新の情報をアップデートするために、絶えずカブリナ・カイトサーフィンのホームページ WWW.CABRINHAKITES.COM をご覧ください。

使用者が18歳以下の場合、両親または保護者に以下の警告やインストラクションに関する項目とユーザーマニュアルを読んでもらう必要があります。レッスンを受け、インストラクターかマニュアルを読んだ者の監督下でしかこの製品を使用できません。

この製品にはその使用に伴い、予期せぬ危険が起こる可能性があります。カブリナおよび販売店は、当製品以外の資産の損失や他資産の消費に生じた損失、あるいはその他の経済的損失を含め、しかしそれに限定されず、いかなる特別的、間接的、付随的、結果的、法的もしくは模範的損害に関して、契約行為であったか、不法行為や過失があったか、厳正な賠償責任であったかを問わず、一切責任を負わないものとします。

カイトボードは激しいスポーツです。パワーカイトやそれにつながるライン、コントロール・エクイップメントは、使用者自身や回りの人々に危険を及ぼす可能性があります。カイトボードを行う際は真剣に、慎重に取り組み、経験が浅いライダーはプロのインストラクターや経験豊富なカイトボーダーのレクチャーを受けることをお勧めします。カイトの使用方法が正しくない場合は、ライダー自身や周りの人々に深刻な怪我を負わず、または最悪の場合には死に至らしめる可能性があります。電線や空港、建物、道路、樹木の近くではカイトを使用しないでください。カイトボードを行って良い場所で行うようにしてください。また、カイトのフライングラインが人や物に触れないようご注意ください。カイトは常に見通しの良い場所でご使用ください。風や天候に留意し、特に、オフショアやオンショア、強風時には注意が必要です。陸上で完全にカイトの操作ができるようになるまで、水上でカイトを使用しないでください。ライダー自身と周囲の人の安全を守るため、カイトの操作に慣れるよう陸上で十分に練習を行ってください。カイトを使用する際の安全面の責任は、すべてライダー自身にあるということを絶えず頭に入れておいてください。このスポーツを練習する際には、自己の限界を留意し、無理をしないようご注意ください。海上でカイトを使用する際には、安全上、必ず保護防具や浮力体を身につけ、カイトとライダー自身をほどけないほどしっかりと繋がないようにしてください。カイトを飛行目的、浮力体として使用しないでください。

A WARNING

お勧めのカイトボーディング練習方法:

カイトボードはいろいろなスタイルやレベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし、他のスポーツと同様に先天的な回避しがたいリスクも伴います。カブリナカイトを使用する前に、下記の安全上のキーポイントを覚えておきましょう。

- カイトボードは危険を伴うスポーツで、カイトボードの使用者は人体のあらゆる箇所に深刻な怪我をする恐れがあることを理解してください。
- カイトボードをする際に怪我をする危険性は非常に高く、カイトボードを始めようとする使用者はそれを理解しなければなりません。
- 未成年は必ず監督者のもとでこの製品を使用してください。
- 初心者はずっとレッスンを受けることを強くおすすめします。
- 使用する前には常にすべてのラインやキャンピー、ブラダー、ネジ、その他全般に、擦れや引き裂けの兆しがないかどうかチェックしてください。
- 擦れや引き裂けの兆しが見られた場合、使用する前にただちにリペアやパーツ交換を行ってください。擦れや引き裂けに関する質問がある場合は、地元販売店にお問い合わせいただくか、ホームページ www.cabrinhakites.com をご覧ください。
- ライダー自身や他の人が怪我をする可能性がある状態やカイトボードのいかなるパーツを破損する可能性がある状態を絶対に避けてください。安全に自力で岸に帰って来られる状態を保ってください。
- 正規販売店で購入した正規製造パーツを使用してください。
- 海の状況やカレント、天気予報など、コンディションに関して勉強し、そういった情報を出艇する前に必ず確認してください。オフショアやオンショア、強風でセーリングする際には注意が必要です。
- 初めてのポイントに行った場合、出艇する前にまずはそのポイントに慣れることを心掛けてください。危険なものがないかどうか、地元のライダーに訊ねましょう。
- 遊泳者や小さな子供など、他のビーチ使用者に注意してください。ボードとカイトやラインを常にコントロールできる状態を保ち、ビーチや海上で風に吹かれて飛ばされないようにしてください。
- 常に十分な浮力体をつけてください。ウエットスーツやUV効果のあるトップスなど、適正なスーツを身に付けて出艇してください。ヘルメットの着用を強くおすすめします。
- 絶えず出艇あるいはビーチに戻ってくるタイミングを他の人に知らせてから行動しましょう。セーリングパートナーをみつけ一緒にビーチにいきましょう。
- コンディションの変化(風が落ちる、風や波が上がるなど)に注意し、変化の兆しが見えたときには、常にビーチに戻ってください。
- ビギナーのうちは自己の限界を超えるコンディションでカイトボードしないでください。
- この製品は改造や変更をしないでください。
- この製品は海上または雪上でカイトボードすることだけを目的としてデザイン、製造されています。
- このマニュアルにはカブリナカイトを陸上、水上、雪上で扱ううえで大切な安全面を明記しています。

A WARNING

雪上で使用する際の注意

- カイトボードの練習方法で留意しなければならない点は雪上での使用も含まれます。雪上でカイトを使用することがあるライダーは以下を熟読する必要があります。
- このカイトは雪上でのアトラクション製品として、完全にコントロールされ、しかるべきマナーのもとで広い雪の積もった広場で使用されなければなりません。
- このカイトを飛行目的で使用しないでください。峰や崖、斜面から上昇する目的でこのカイトを使用しないでください。
- ライダーがランディングする際に衝撃を受けるような、いかなるエアも行わないでください。
- 平坦でない地形やアイスバーン・コンディションなど、あらゆる山岳地を使用する際には十分な注意をはらう必要があります。山岳地の風は非常に不安定で、不意に風向きや強さが変わることがあります。
- この製品を電線やライフライン、樹木、他の障害物のある所で使用しないでください。こういった障害物との接触は深刻な事故に繋がる恐れがあります。
- 常に保護用のギアを身につけて使用してください。特にスノーボード専用のヘルメットの装着を強くおすすめします。
- カイトの飛行中は車やスノーモービルなど、それが動いているか否かに関わらず、動く物とライダーを接続しないでください。
- 常にカイトを十分にコントロールでき、人や障害物を避けたり止まれるように保つ必要があります。
- スノーカイト: 風下や下り坂にいるライダーには権利があります。自己の責任において他の人を回避してください。
- スノーボード: 傾斜の下にいる人に優先権があります。ルールに従い回避することはライダーの義務です。
- 他の人を邪魔をしたり見えない所で停止しないでください。
- 動き始める前には風上や斜面上、回りに人がいないことを確認してください。
- 常に流れ止めを使用してください。流れ止めを外す必要がある場合は、バインディングを雪につきさすようにしてスノーボードを山側に置き、ボードが滑らないようにします。
- すべての看板等、掲示物を確認してください。
- 滑走禁止区域で使用しないでください。
- スノーボードと合わせてカイトを使用する前には、スノーボードに乗るための知識と安全に着脱できる能力が必要です。
- アルコールや薬の影響がある状況、または体調が優れない場合はスノーボードやスノーカイトしなでください。
- 雪山やスノーボード/スノーカイトのコンディションは絶えず変化します。人造物や樹木、岩、破片、斜面、雪崩地域、クレバス、崖、電線、リフトのライン、ウォーターハザード、太陽が照りつけることによって起る雪面の変化、風や天候の変化など、スノーボード/スノーカイトのコントロールに影響を与えるすべての事項に十分に注意してください。

CONTENTS

CABRINHA

一般的な使用についての説明

- 2 重要な情報
- 3 風と海面、天候について
- 4 ライダーレベルの認知/カイトボーディングに適した場所
- 5 カイトとコントロールシステムのケア
- 6 ビーチでのエチケット
- 7 操作ゾーン

2020 オーバードライブ1X

- 8 オーバードライブ1Xクイックループ/トリムライト
- 9 オーバードライブ1Xクイックループ/リコイル
- 10 オーバードライブ1Xモジュラー/トリムライト
- 11 オーバードライブ1Xモジュラー/リコイル

セッティング

- 12 ダウンウインド用ランチング・セッティング
- 13 アップウインド用ランチング・セッティング

操作方法

- 14 クイックループの操作
- 16 モジュラーの操作
- 20 バイパスリーシュの操作
- 21 安全ライン
- 23 トリムシステムの操作
- 24 ラインの長さのチェック
- 25 ラインの長さの調整
- 26 オーバードライブバーの調整
- 27 チューニング
- 28 ステアリング
- 29 カイトのセッティング
- 30 ランチング
- 31 ランディング
- 32 リランチ
- 33 メンテナンスとケア

用語集

重要な情報

新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてカイトボードの世界へようこそ。ご存知のとおりカイトボードの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。もっともダイナミックに急成長している新種のスポーツのひとつということができるでしょう。

注意!

カイトボードはしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもあります。そのためにカブリナではこのユーザー・マニュアルを配付しています。これは新しいカイト製品を購入されたライダーの方が製品に対する知識を広め、安全に使用するために必要なものです。さらにセッティングやメンテナンスなど、コントロールシステムに対する知識を深め、安全システムの使い方と機能について学び、長い間使っていただくためのインフォメーションも多く記載してあります。このコントロールシステムに適応するカイトに関してはカブリナ・カイトのウェブサイト www.cabrinhakites.com をご覧ください。

実際にカイトをご使用になる前に、このユーザー・マニュアルのすべてのページを熟読してください。このマニュアルはカイトボーディングのインストラクションを目的につくられたというより、補足的な説明をしているものですが、ライダー自身および周りの人の安全のためにも必要な事柄が記載されています。

カイトボーディングはいろいろな種目で、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じように怪我をするリスクを伴っています。これからカブリナ・カイトを使用する際に覚えておかなければならない、安全上のキーポイントを紹介していきます。

- クイックループやモジュラーリリースシステムといった安全システムを正しくセッティング、使用し、慣れ親しんでください。
- コントロールシステムは添付の説明に基づいてセットし、また使用してください。
- コントロールシステムに適応するカイトと合わせて使用してください。
- リリースシステムがきちんと作動するよう、使用前後に確認を行ってください。
- 常にカブリナ・バイパスリーシュを用いて使用してください。
- カイトやコントロールバー、ラインとライダーを離れることができない状態で接続しないでください。
- カイトを飛行目的で使用しないでください。
- テンションのかかった状態にあるすべてのラインに決して触れないでください。ラインにテンションのかかった状態のカイトに触れないでください。
- 空気の入った状態で使用していないカイトは、必ず砂や何か重い尖っていない物を置いて安全を確保してください。充分と思われる以上に重たい物を置くことをお勧めします。(カイトの取扱い、情報の項参照) ライダーがいなくても、空気の入ったカイトは飛ぶ恐れがあるので、充分に自己や周りのものに注意を払ってください。突然カイトが飛行してしまった場合、周りの人に深刻な怪我を与え、死に至らしめる可能性があります。
- 空気の入ったカイトに対する充分な訓練をしていない人に、ギアを貸さないでください。使用者は必ずこのユーザーマニュアルを熟読し、すべての項目に同意する必要があります。
- フライングラインや安全システム、カイト、ボードなどのギアは、きちんとセッティングされていること、きちんと作動することといった項目を、海上に出る前に必ずチェックしてください。

重要な情報

風と海面、天候について

- カイトボーディング専用ヘルメット
- ライフジャケット、インパクトベストなどの浮力体
- ネオプレン製ウエットスーツ
- グローブ
- フーツなど足を保護するもの
- 目を保護するもの
- 安全用ナイフ
- 日焼け止め

安全のためのギア

以下のプロテクション用ギアの使用を強くおすすめします：

風と海面、天候について

- 風のパワーを過小評価しないでください。
- 不意の天候の変化に気を付けてください。
- オフショアやオンショアのコンディションでカイトボードしないでください。
- 強風やガスティな風でカイトボードしないでください。
- 特にビギナーのうちは波のあるコンディションでは注意が必要です。
- 潮の満干やカレントを調べましょう。
- 自己のレベルを認知しましょう。自己の限界を超えるコンディションではカイトボードをしないでください。
- 外気温や水温について前情報を得て適切なスーツを身に着け、自然要素から身を守りましょう。
- 嵐のなかでこの製品を使用しないでください。
- 必要に応じて風速計を用いたり、気象情報センターを利用し、コンディションを把握しましょう。
- オーバーサイズになるカイトを使用するのはやめましょう。風の早分かり表を使い、最適なサイズのカイトを選びましょう。常識の範囲内で無理をせず、サイズの決定に不安が残るときには小さいサイズを選びましょう。
- ライダー自身がカイトに装備したクイックリリース(QR)とオーバードライブ1Xを身体的に操作できることを確認してください。カブリナのクイックリリース(QR)と、オーバードライブ1Xは体重120キロまでの方が安心してお使いいただけるよう開発、テストしています。
- 突然風が上がるなど、コンディションの変化によって安全システムを作動することもあります。体重による安全システムの作動状況については、専門店である最寄りのカブリナ正規販売店にお問い合わせください。

重要な情報

ライダーのレベルの認知

- きちんとしたインストラクションなしでカイトボードしないでください。
- 一人でのライディングは禁止です。
- ランチングやランディング、ライディングを行う際にはパートナーと行うか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- この製品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- 実際のカイトを飛ばす前に、サイズの小さい『トレーニング・カイト』でカイトを飛ばす練習を行います。
- 『トレーニング・カイト』で十分に練習を重ねることによって、より安全に上手にカイト操作を行うことができるようになります。
- この製品を水上または水際で使うためには上手に泳げなければなりません。
- 自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- 泳いで帰れないほど沖ではカイトボードしないでください。
- 絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にカイトボーディングのセッションを終了してください。
- 実際にカイトボードを行う前に安全上の予防策を頭に入れておいてください。セッティング、ランチング、ランディング、フライングの方法、および水上で使用する際の注意、レスキューの方法など。
- カイトをランチングする前に安全システムを理解しておく必要があります。
- カイトを海の近くで使用する前に、自己レスキューの方法を身につけてください。
- インフレーターカイトを扱ったことがない人にランチングやカイト・キャッチをさせないでください。そういった人や回りの人、ライダーに怪我を負わせてしまう恐れがあります。
- 安全上の責任は全てライダーにあります。

カイトボーディングに適した場所

- 地域の法律や決まり、規則に従い、使用可能な場所でこの製品を使いましょう。
- 天候やローカルルールについて、地元のライダーの話聞きましょう。
- カイトをランチングさせる前に必ず周囲をチェックしてください。
- この製品を使用する際にはランチングやランディングに広いスペースを必要とすることを理解してください。
- カイトを使用する際、ライダーの左右、風下に少なくとも100mのスペースが必要です。特に風下には十分にスペースをとってください。
- 特にランチングする場所では風向きに絶えず注意する必要があります。
- 浅いリーフや飛び出しているリーフ、岩のある場所で行わないでください。
- 潮回りに注意してください。干潮時にはビーチの様子が変わり、今までになかった障害物があらわれる可能性があります。
- 電線や電柱、木、人、ペット、建物、車、道路、尖ったものがある所、空港の近くではカイトを使用しないでください。
- 人の多いビーチや波打ち際には使用しないでください。
- 歩道や人の通る場所にラインが渡らないようにしてください。
- ライダーとカイトの間を他の人が通過しないようにしてください。
- ウインドサーフィンやジェットスキーなどの他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人、浮遊物に対して十分に注意してください。
- ランチングの前には、ランチング場所以外にも安全にランディングできるスペースを確認してください。

重要な情報

カイトとコントロールシステムのケア

エクストリーム性の高い性質を持つカイトボードでは、カイトの運搬やセッティングの際にも安全ギアと同様にすべてのギアをしっかりと扱わなければなりません。

セッションの準備

- 安全のための道具（ヘルメットなど）が壊れていないか、通常の働きをするか確認しましょう。
- カイトやコントロールシステムをこまめにチェックし、空気もれや引き裂け、キャンピーやパテンの擦れ、安全システムの異常をいち早く発見するようにしましょう。フライングラインにも擦れやほどけない結び目がないことを確認します。これがフライングラインの寿命に影響を与えます。プライダルラインとプーリーにも擦れがないかどうか点検し、必要に応じて新しいものと交換してください。
- コントロールシステムは使用毎に真水ですすいでください。全てのパーツが正常に機能していることを確認してください。欠けや腐食、さび擦れなどがある場合は必要に応じてパーツ交換します。
- アスファルトやセメント、砂利など、摩擦の大きい所でセッティングするのは止めてください。道具を痛める恐れが多分にあります。砂や芝生の上でセッティングするのが理想です。摩擦の大きい所でセッティングした際に生じたダメージは保証範囲外となります。
- キャンピーを破いたり、パテンやリーディングエッジの空気もれを起こすような、尖ったもののある所でセッティングしないでください。
- フライングラインを尖った物のあるところで広げないでください。
- セッティング中は砂や砂袋でカイトを安全に保管してください。カイトを傷つけるような尖ったものや岩、摩擦を起こすようなものからカイトを遠ざけてください。

セッションの途中で

- 長時間、空気を挿入したカイトを人の手から離れた状態でビーチに放置しないでください。風がシフトしたり風向きが変わることによって、カイトの安全性が保たれなくなり飛んでいってしまう恐れがあります。
- 空気を挿入した状態のカイトを（重りを乗せていても）長時間ビーチで風に吹かれた状態にしない

でください。こういった状態では、トレーリングエッジが絶えず風に吹かれた状態となり、カイトの素材を痛め、カイトの寿命を短くします。もし長時間ビーチにカイトを置かなければならないときは、パテンやトレーリングエッジなど、カイトの広範囲に砂を乗せバタつきを最小限にとどめた状態にしてください。また岩など尖ったものを重しに使わないでください。

- 長時間、太陽光線のもとにカイトを広げておかないでください。セッションの間にはカイトを安全に保管できる日陰を探してください。使用していないときは片付けましょう。

正しい収納方法

- コントロールシステムを高温になったり、直射日光が当たる場所に保管しないでください（車内など）。EVAを素材とするパーツにダメージを与えることになり、コントロールシステムの機能を損ねることにつながります。
- カイトを丸めたり折り畳むときは、必ずよく乾燥させてください。濡れた状態での折り曲げや丸めは、カイト劣化の原因となります。
- 収納前には異物や砂を取り除き、コントロールシステムをきれいな状態にしてください。
- 収納中はコントロールシステムに重たいものを乗せないでください。
- 真水を溜めたバケツにコントロールシステム全体（ラインをバーに巻いたまま）を5分つけるという方法で、使用ごとにコントロールシステムを洗ってください。その後、完全に乾かしてください。
- コントロールシステムが完全にきれいで乾燥したら、乾燥した涼しい場所に保管ください。
- 空気を挿入したカイトを車の中や車上の収納ボックスに入れたままにしないでください。気温の変化によってカイトが破裂する恐れがあり、これによって内蔵ブラダーは深刻なダメージを受けます。

重要な情報

ビーチエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと共有するために考えられる基本的なエチケットです

安全

- このマニュアルやその他製品についてくるすべてのマニュアルを熟読しましょう。
- 使用ビーチに掲げられている安全やルールに関する看板や掲示物をよく読み、それに従いましょう。
- 新しいポイントでランチングする前に地元のカイトボーディング協会やショップに行きましょう。看板や掲示物にない地元のルールや規則がある可能性があります。
- 一般的な安全認識に従いましょう。
- バーやカイトなど、他の人の道具に許可なく触ったり、チューニングをしたりしないでください。
- 常にカイトは砂や砂袋を使って安全を保ってください。ライダーが操作していないカイトは危険です。
- 空気を入れた状態のカイトをライダーから離れた所に置かないでください。風向きが変わりカイトが不用意に飛んでしまう危険を避けるためです。

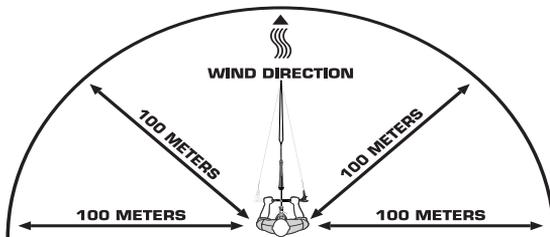
セッティング

- 使う道具だけをセッティングしましょう。使用していないカイトは空気を抜いて、ただちに片付けましょう。
- 十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。
- 他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。
- 使用時以外はライン類を巻いておきましょう。
- ランチングやランディング、ライディング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。
- 他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。
- 常に必要に応じて他のカイトボーダーの助けをかりられるようにしておきましょう。他のカイトボーダーと互いに助け合いましょう。

重要な情報

使用可能なエリア

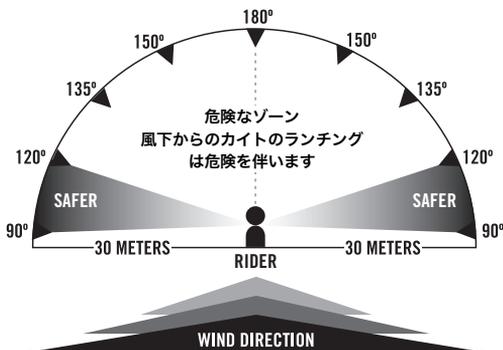
両サイドとライダーの風下側に100mの余裕が必要です。ライダーが他の人、物に対して安全を確保するため十分なエリアがとれない場合は、カイトをランチングしないでください。



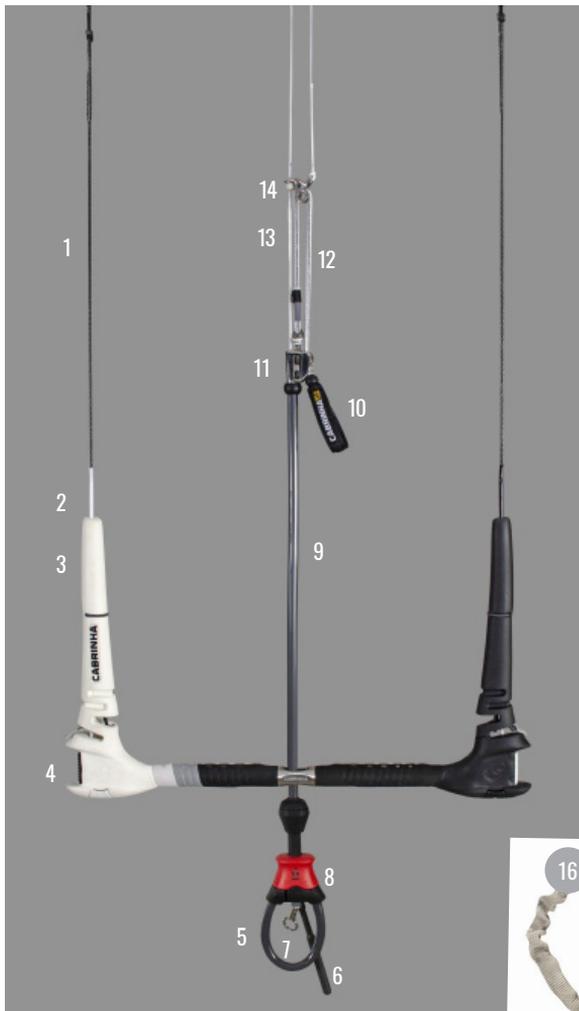
⚠ WARNING

ランチングの準備

- ライダーの左右と特に風下側に100m以上なにもないスペースを確保します。
- ライダーが立つポイントより風下側にカイトがランチングすることを考慮し、道具を置きます。
- ライダーの真風下の位置からカイトをランチングしないでください。このエリアのカイトはパワーがありすぎるためライダーや周りに危険を及ぼす可能性があります。周りの安全に充分に留意してください。
- 基本的にライダーが背中から風を受けている場合、真風下は180度の角度となります。ライダーの左右100度の角度で風下側にカイトがセッティングされるようにしてください。
- ランチング時にカイトが風上に向かっていればカイトのパワーは少ないので、安全なランチングに最適です。
- ライダーがコントロールバーを持ち、カイトから30m離れる間、パートナーにカイトを持ってもらう方法が理想的です。
- ランチングはゆっくりと安全に行ってください。カイトのランチング時の角度を考え、決して真風下からランチングしないでください。



オーバードライブ1Xクイックループ・トリムライト

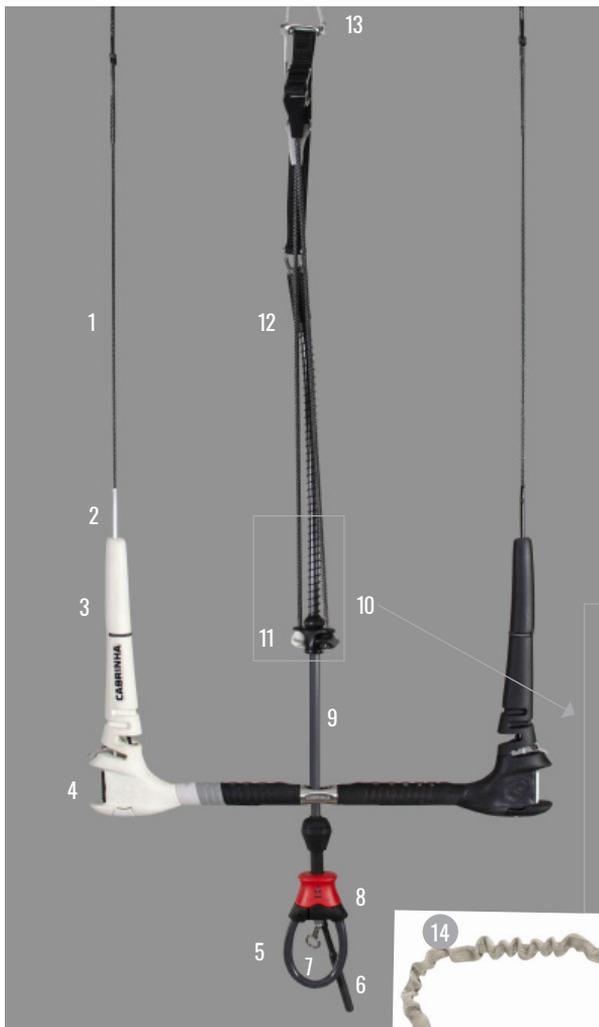


OD 1Xトリムライトの内容

- 1) リア (ステアリング) ライン
- 2) カラーカバー付ラインスリーブ
- 3) EVA製フロート・パーエンド
- 4) ライン・ワインダー
- 5) クイックループ・ハーネスループ
- 6) 取り外し可能な安全ピン
- 7) バイパスリーシュ接続部分
- 8) クイックリリース (QRS)
- 9) デパワー・メインライン
- 10) トリムライトハンドル
- 11) トリムライトクリート
- 12) トリムライン
- 13) セキュリティライン
- 14) トリムライト・パワーブラケット
- 15) フロント・コントロールライン
- 16) バイパスリーシュ
- 17) バイパスリーシュ・クイックリリース

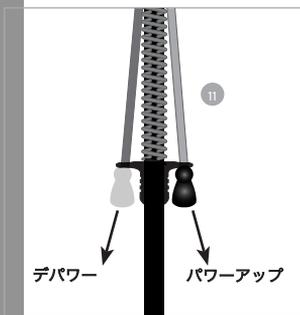


オーバードライブ1Xクイックループ・リコイル

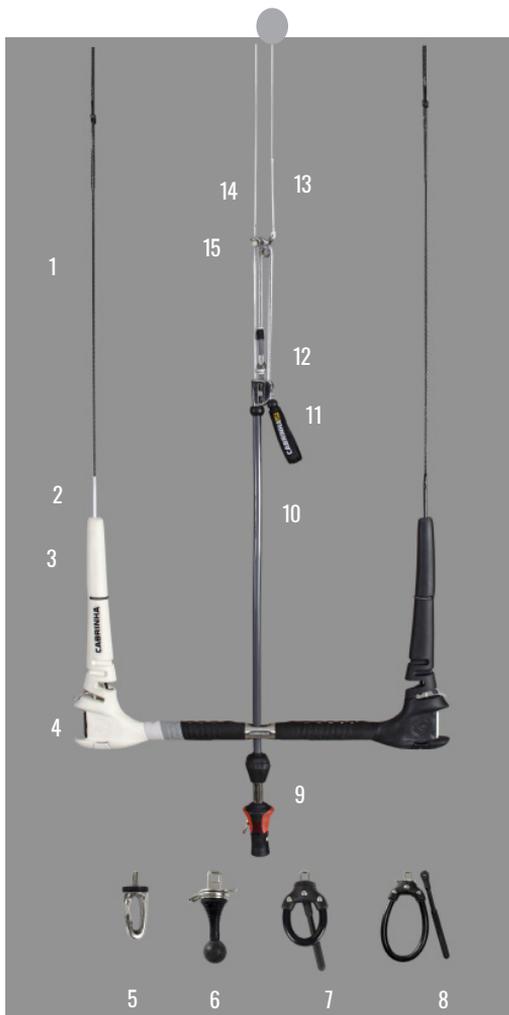


OD 1Xリコイルの内容

- 1) リア (ステアリング) ライン
- 2) カラーカバー付ラインスリーブ
- 3) EVA製フロート・バーエンド
- 4) ライン・ウィンダー
- 5) クイックループ・ハーネスループ
- 6) 取り外し可能な安全ピン
- 7) バイパススリーシュ接続部分
- 8) クイックリリース (QRS)
- 9) デパワー・メインライン
- 10) トセンターライン・トリムシステム
- 11) トバンジートリムアジャスター
- 12) セキュリティライン
- 13) フロント・コントロールライン
- 14) トバイパススリーシュ
- 15) バイパススリーシュ・クイックリリース



オーバードライブ1Xモジュラー・トリムライト

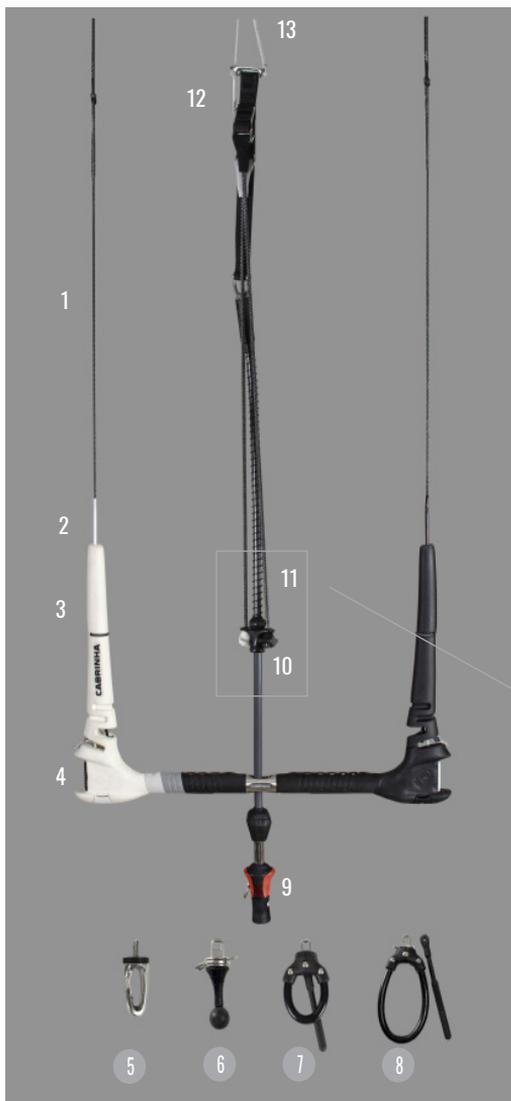


OD 1Xモジュラートリムライトの内容

- 1) リア（ステアリング）ライン
- 2) カラーカバー付ラインスリーブ
- 3) EVA製フロート・バーエンド
- 4) ライン・ワインダー
- 5) ロープスライダー
- 6) フィヤボール
- 7) ループS
- 8) ループL
- 9) クイックリリース（QRS）
- 10) デパワー・メインライン
- 11) トリムライトハンドル
- 12) トリムライトクリート
- 13) トリムライン
- 14) セキュリティライン
- 15) トリムライト・パワーブラケット
- 16) フロント・コントロールライン
- 17) バイパススリーシュ
- 18) バイパススリーシュ・クイックリリース

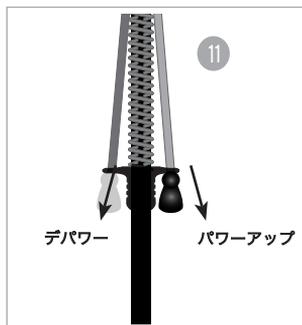


オーバードライブ1Xモジュラー・リコイル

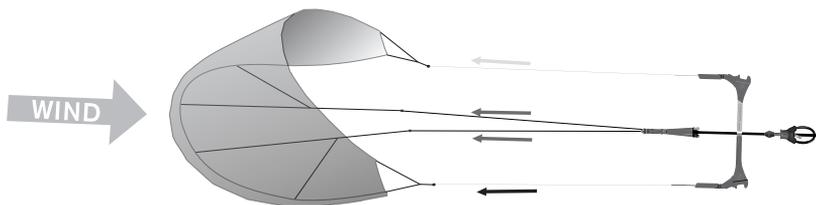


OD 1Xモジュラーリコイルの内容

- 1) リア (ステアリング) ライン
- 2) カラーカバー付ラインスリーブ
- 3) EVA製フロート・バーエンド
- 4) ライン・ワインダー
- 5) ロープスライダー
- 6) フィヤボール
- 7) ループS
- 8) ループL
- 9) クイックリリース (ORS)
- 10) デパワー・メインライン
- 11) センターライン・トリムシステム
- 12) バンジートリムアジャスター
- 13) セキュリティライン
- 14) フロント・コントロールライン
- 15) バイパスリッシュ
- 16) バイパスリッシュ・クイックリリース



セットアップ：ダウンウインドのランチング



ダウンウインド・セッティング（バーがカイトの風下にある場合）

- カイトの風下側30mのところをバーを置きます。ウイングチップはバーの方向(リーディングエッジは風上方向)を向いています。カイトの風下にバーを置くとき、バーを上下逆にして置き、ラインを伸ばし始めます。コントロールシステムの白側は右に、ブラック側が左に来るように設置します。
- ブライダルを整えて配置し、ブーリーに砂やゴミがないことを確認します。
- ステアリング(外側)のラインをラークヘッド・ノットを使い、リアライン接続ポイントにある真ん中のノットにつなぎます(図1-3)。コントロールシステムとラインが正しく配置し、ラインの長さがフルパワー時のカイトで均等になることを確認します。
- カイトをフラッグアウトしたい側を選び、フロント・ビッグテイルによって接続できる1Xの所定の位置にセンターラインを取付けます。カイトを右にフラッグアウトしたい場合、カイトの左側(黄色いリア・ビッグテイルのブライダルと同じ側)に接続します。カイトを左にフラッグアウトしたい場合、右側黒いリア・ビッグテイルと同じ側に接続します(図4-6)。
- 再びライン同士が交差せず、ねじれがないことを確認します。
- カイトの飛行への準備は終了です。

安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。

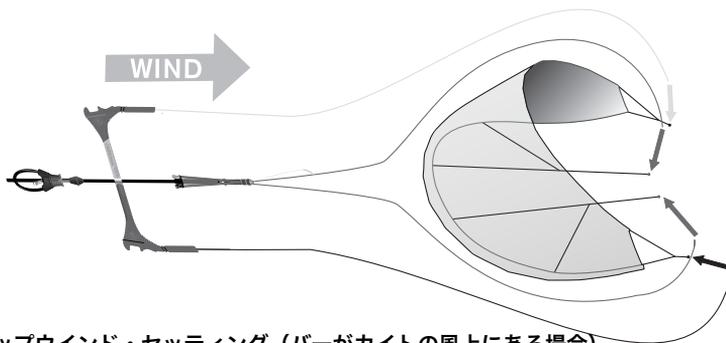
リア (ステアリング) ライン



フ (フロントデヴァー) ライン



セットアップ：アップウインドのランチング



アップウインド・セッティング（バーがカイトの風上にある場合）

- カイトの風上側30mのところをバーを置きます。リーディングエッジはバーの方向、風上を向いた状態で置きます。ウイングチップはバーと反対方向を向いています。コントロールバーは通常の状態、コントロールシステムのブラック側は右に、白側が左に来るように設置します。
- プライダルを整えて配置し、プーリーに砂やゴミがないことを確認します。
- ステアリング(外側)のラインをほどき、2本のラインを4フィートほど離して平行に、カイトの近くまで地面に置いていきます(黄色いシートは左、黒いシートは右です)。
- ラインの間にカイトが入るくらい、ラインの間隔を広げます。
- デパワー(センター)ラインの所に行き、それぞれが平行になるようにデパワーラインをステアリングラインの間に置きます。4本のラインが平行に並ぶ形となります。すべてのラインが交差したりねじれのないことを確認します。
- ウイングチップを風下に向け、ステアリングライン端近くにウイングチップが来るよう、カイトを置きます。そのためカイトはデパワーライン上に置かれるようになります。
- カイトが砂や砂袋で固定されていることを再度確認してください。
- カイトの外側にあるステアリングラインをウイングチップにある後方プライダルに接続します。ラクヘッド・ノットを使い、リアライン接続ポイントの真ん中とステアリングラインを接続します。ノットがしっかりと結ばれていること、4本のフライングラインは加重がかかった状態で均等になっていることを確認します。
- カイトをフラッグアウトしたい側を選び、カイト内側にあるセンターラインをフロント・ビッグテイルによって接続できるバーの所定の位置に取付けます。カイトを右にフラッグアウトする場合、カイトの左側(黄色いリア・ビッグテイルのプライダルと同じ側)に接続します。カイトを左にフラッグアウトする場合は、右側(黒いリア・ビッグテイルと同じ側)に接続します(図4-6)。
- 再びライン同士が交差せず、ねじれがないことを確認します。
- カイトの飛行への準備は終了です。

安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。

クイックループの取り扱い方法

この製品はカイトボード用ハーネスフックと合わせて使用するようデザインされています。



1. 内側のヒンジが見えるまでQR1（赤い部分）を持ち上げます。



2. ループの端をもち、動かなくなるまでハーネスループボディに差し込みます。



3. QR1 ハンドルをキャッチから外します。



4. ハーネスループボディと同じ高さになるまで、QR1ボディをシャフト上に下げます。内側のキャッチが外れやすいのは、QRボディをまっすぐに立てた時です。



5. クイックループにハーネスを接続します。上からかけるようにするとスムーズに行えます。



6. 安全用ピンをループの下から挿入しハーネスフックの穴に通します。

安全ピン

ハーネスループはライダーが安全ピンを装備したデパワースystemにのみ接続した場合に使用できます。この安全ピンは、ライダーがハーネスループにハーネスフックをかけているときにだけ作動します。そのためハーネスフックとハーネスループがしっかりと接続されていることが重要となります。正常に接続されている場合のみ、ただちにカイトをデパワースさせること、バーを自由に回すこと、簡単にカイトをリランチすることができると同時に、カイトとライダーが安全に接続された状態となるシステムです。

- 安全ピンはランチングの準備ができたときに挿入するか/バイパスリシュを接続して使用することをお勧めします。

注意:安全ピンが挿入されているとき、ライダーはカイトと半接続状態にあります。安全ピンを挿入する前に、クイックリリース・ハンドルがどこにあるのか、どのようにすれば作動するのか確認してください。

クイックループの取り扱い方法

安全ピンの取り外し方



1. FCS(サイズ3/32) アレンキーを使用し、安全ピンのネジを反時計回りに回転して取り外します。



2. 安全ピンをクイックループ本体から下向きに引き抜きます。多少強い力が必要な場合も、また左右にピンを揺らす必要がある場合もあります。こうすることでクイックループ本体からピンが外れます。



3. 安全ピンのネジが紛失しないよう、クイックループ本体に挿入後ネジを締めておきます。

クイックリリース (QRS操作)



赤いリリースハンドルをスピニングハンドルに当たるまで上に（図中矢印方向）引き上げます。この第一段階のクイックリリース（QR1）を行っても、カイトは1Xセキュリティラインによってライダーとつながっています。カイトを完全にライダーと切り離すためにはパイバスリーシュを外す必要があります。

モジュラーの取り扱い方法

モジュラーリリースシステムにより、ライダーは同じリリースに接続されたさまざまな接続ツールを使用できます。ライダーは午前中にファイヤボールでセッションし、午後にループに付け替えフリースタイルを楽しむことができるのです。接続ツールを簡単に交換できるモジュラーリリースシステムならではのメリットです。QRS機能を作動させる状況が発生した場合に備え、モジュラーリリースシステムの操作に精通している必要があります。

メンテナンスとケア

使用毎に真水ですすいでください。全てのパーツが正常に機能していることを確認してください。欠けや腐食、さび擦れなどがある場合は必要に応じてパーツ交換します。

ファイヤボールのオートロック接続

この製品はカブリナのファイヤボール・スプレッターバーと合わせてご使用になれます。

ファイヤボール・オートロックはファイヤボール・スプレッターバーと合わせて使い、デパワーシステムと接続するシステムです。安全システムはファイヤボール・オートロックとファイヤボールハーネスによって性格に作動します。この接続の組み合わせにより、ライダーはカイトをデパワーさせ、バーを自由にスピンスさせ、簡単にカイトをリランチすることができるのです。

カブリナではランチングの準備ができた状態であるカバイパスリーシュを接続済みの時にファイヤボール・オートロックを使用することをお勧めします。

注意:ファイヤボール・オートロックが使用されている時、ライダーはカイトと半接続状態にあります。ファイヤボール・オートロック使用前に、クイックリリース・ハンドルがどこにあるのか、どのようにすれば作動するのか確認してください。



1. モジュラーコントロールシステムにファイヤボールを取り付けるには、まずセキュリティラインの端にスピニングリーシュを取り付ける必要があります。スピニングリーシュの小さな開口部にラインの端を通して止めます。



2. スピニングリーシュを取り付けたら、リリースハンドルを持ち上げ、金属製ループをファイヤボールに取り付けます。その後モジュラーに接続します。



3. リリースハンドルを下げ、ファイヤボールがしっかりと接続できていることを確認します。



4. リーシュをスピニングリーシュにあるスパイラルフープに接続します。



5. ファイヤボールをハーネスに接続するためには、ボールをスプレッターバーのソケットに挿入します。



6. オートロックを締めます。ライディングのために準備は完了です。

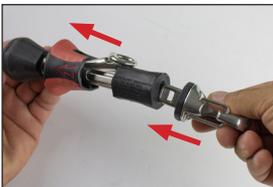
モジュラーの取り扱い方法

ローブスライダーの接続

この製品はカブリナだけでなく、他ブランドのkite board用スライダーハーネスと合わせてもお使いいただけます。



1. モジュラーコントロールシステムにスライダーを取り付けるには、まずセキュリティラインの端にセーフティリングを取り付ける必要があります。



2. リングを取り付けたら、リリースハンドルを持ち上げ、スライダーにある金属製のフープをモジュラーに接続します。ゴム製のワッシャーに触れるまで差し込みます。



3. リリースハンドルを下げ、スライダーがしっかりと接続できていることを確認します。



4. リーシュを1Xラインの端にあるリングに接続します。



5. スライダーをハーネスに接続するためには、ハーネスフックの内側にあるロープにクリップを通します。ライディングのために準備は完了です。

ループSの接続

この製品はカブリナだけでなく、他ブランドのkite board用ハーネスフックと合わせてもお使いいただけます。



1. モジュラーコントロールシステムにループを取り付けるには、まずセキュリティラインの端にセーフティリングを取り付ける必要があります。



2. リングを取り付けたら、リリースハンドルを持ち上げ、ループにある金属製のフープをモジュラーに接続します。ゴム製のワッシャーに触れるまで差し込みます。



3. リリースハンドルを下げ、ループがしっかりと接続できていることを確認します。

モジュラーの取り扱い方法

ループSの接続の続き



4. リーシュを1Xラインの端にあるリングに接続します。
5. ループをハーネスに接続するためには、ハーネスフックをループにかけます。
6. ループの下から安全用ピンを差し込みます。ライディングのために準備は完了です。

ループLの接続

この製品はカブリナだけでなく、他ブランドのkite board用ハーネスフックと合わせてもお使いいただけます。



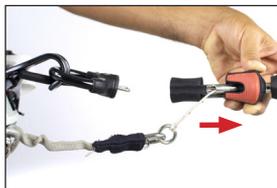
1. モジュラーコントロールシステムにループを取り付けるには、まずセキュリティラインの端にセーフティリングを取り付ける必要があります。
2. リングを取り付けたら、リリースハンドルを持ち上げ、ループにある金属製のフープをジュラーに接続します。ゴム製のワッシャーに触れるまで差し込みます。
3. リリースハンドルを下げ、ループがしっかりと接続できていることを確認します。



4. ループはアンフックのライディングを求めるライダーのためにデザインされています。ハンドルパスの最中にバーを離しても安全システムが作動しないよう、リーシュはプロ接続パーツにつなぎます。この接続方法でも安全システムは始動します。
5. ループをハーネスに接続するためには、ハーネスフックをループにかけます。
6. 必要に応じてループの下から安全用ピンを差し込みます。ライディングのために準備は完了です。

注意：プロ接続モードでのライディングは強くお勧めできません。このモードで使用する場合にはライダーが最大限の注意を払い、ライダー自身の責任において使用してください。プロ接続モードでは、フックを外した状態でバーを放すと、1Xセーフティシステムを作動にする機能がなくなります。

クイックリリース (QRS操作)



赤いリリースハンドルをスピニングハンドルに当たるまで上に（図中矢印方向）引き上げます。この第一段階のクイックリリース（QR1）を行っても、カイトは1Xセキュリティラインによってライダーとつながっています。カイトを完全にライダーと切り離すためにはパイバスリーシュを外す必要があります。

バイパスリーシュの取り扱い方法

バイパスリーシュ

バイパスリーシュQRはQR2として行い、QR1を作動させた後、カイトとライダーを完全に切り離すために行うシステムです。

カイトを完全に切り離すということは、カイト単体で風下に流れていくということです。可能であれば切り離したカイトが他の人に危害を与える可能性がある状況で行わないでください。また海上で切り離した場合、カイトが回収できなくなる可能性もあります。カイトを完全に切り離す時は最新の注意と適切な判断力が必要です。全てのQR動作の操作とシステム自体になれてからこの製品を使用する必要があります。



バイパスリーシュの接続



1. ハーネスにリーシュを接続する時にはリリースするときのようにリーシュ・リリースハンドルを引き上げます。



2. ハーネスのリーシュ接続箇所リーシュを取り付けます。



3. リリース・ピンの先をライン端のループに通します。



4. リリース・ピンをハンドル内に収納できる位置に戻しハンドルを元の位置にスライドします。



5. リーシュの端とコントロールシステムにある1Xラインにつなぎます。

バイパスリーシュの接続解除



リーシュの接続を解除するためには、ハンドルを握り、体と離れた方向にハンドルを移動させます（図中の矢印方向）。この操作はメインのリリース操作を行った後に行います。

セキュリティラインの操作方法

セキュリティラインの操作方法

SLFはブライダルとコントロールシステムを単純化して、2段階のデパワー機能をスムーズに行えるものです。ライディングしている最中に要求に応じてデパワーすること(ステージ1)、カイトをシャットダウンさせるためのステージ2デパワーの2段階の機能を備えます。ステージ2デパワー機能では、リーディングブライダルからなるフロントラインのみでカイトを支えることで、カイトは風にたぶくようになります(フラッグアウト)。SLF搭載のカイトは4本ラインの構造で、ラインをシンプルにし安全性を高めたコントロールバースystemです。

必要に応じてデパワー:第1段階のデパワー

操作方法:

要求に応じてデパワーするシステムを利用すればただちにカイトはデパワーします。コントロールバーをライダーから遠ざけることによってカイトはデパワーします。ライダーからバーを遠ざければ遠ざけるほどカイトはデパワーします。これはライダーがカイトのパワーを回復させることができる、最大限のデパワーシステムであり防衛策といえます。

第2段階のデパワー (QR)

ステージ2のデパワーはカイトをシャットダウンさせる時やセッションを終わりにするときに使用します。水上陸上ともに使用できます。ただしこのシステムは要求に応じたデパワーに比べてリランチが難しいといえます。ステージ2デパワーは、リーディングエッジブライダルからなるフロントラインを使い、カイトをフラッグアウトすることによって、カイトに残ったパワーをリリースするシステムです。

操作方法:

ステージ2のデパワーを使用する場合、リシュ・コネクションリングにバイパスリシュを接続しておく必要があります。水上に出る前にすべてのQRの位置と操作に慣れておくことが重要です。ステージ2デパワーはQR1を作動させた(矢印方向に引く)後でなければ作動できません(図2)。QR1を作動させることによって、ハーネスループが開き(モジュラーの場合は接続が解除され)、ハーネスがループから外れ、セキュリティライン1本のみ加重がかかるようになります。これによってカイトは最大限にデパワーし、カイトはフラッグアウト(風にたぶく)し水上または陸上に落下します。カイトが安全にランディングしたら、SLFセキュリティラインとコントロールライン沿いに歩き、カイトに近づきます。バーに近づく時、セキュリティラインやコントロールラインを握らないでください。ラインを握るとカイトがパワーアップする可能性があります。

カイトのリーディングエッジを持つまで、ランディングラインのみを持ちます。この動作の途中でカイトがパワーを持ち直し、ライダーを引くことがあります。ライダーがカイトを引き返すと、カイトはさらに強く引くことがあります。この場合は、カイトに1、2歩近づき、カイトを完全にフラッグアウトします。リーディングエッジを握れるまでSLFラインに沿って歩きます。その後カイトに砂をかけるか(陸上にいる場合)セルブレスキューを行います(水上にいる場合)。

カイトとの接続を解除

QR1を動作した後は、必ずライダーをカイトから完全に離す必要があります。バイパスリシュのクイックリリースを作動させることによって、カイトはライダーから離れます(図3、4)。

重要:

カイトがライダーから離れると、カイト自体が単体で風下に向かいます。ライダーを伴わないカイトは他の人を傷つける恐れがありますので、カイト単体には最終手段と考えてください。また海上でカイトを離すことはカイトを持ち帰れない可能性があることを意味します。カイトを離す時には十分な注意と状況判断が必要です。

SLFランディングラインの再接続

カイトと一緒に安全にビーチに戻ったら、次の使用に備えてセキュリティラインをリセットする必要があります。カイトに接続する時のようにラインを伸ばします。1本1本のラインをばらばらにしてそれぞれが平行になるように置きます。セキュリティラインが他のラインに絡んでいないことを確認してください。QR1をこのマニュアルの14、16、17、18ページを参考にリセットします。

セキュリティラインの操作方法



トリムシステムの操作方法



リコイルとトリムライト、両方のシステムはフロントラインの長さを変える（希望によりトリムできる）システムです。リコイルではCASの白いハンドル、またはトリムライトではファブリックのハンドルを引くことによってラインが短くなりカイトはデパワーします。パワーアップするためにはフロントラインの長さを長くする必要がありますので、CASの黒いハンドルを引くか、トリム用のクリートをリリースします。

リコイルセンターライン調整ストラップ (CAS)

- ・デパワーするには、白いTハンドルを引きます。
- ・パワーアップするには、ブラックTハンドルを引きます。

注意：CASは調節の幅に限界があり、1 Xデパワー機能（クイックリリース 前頁参照）とは異なる機能であることにご留意ください。

トリムライト

デパワーするには：

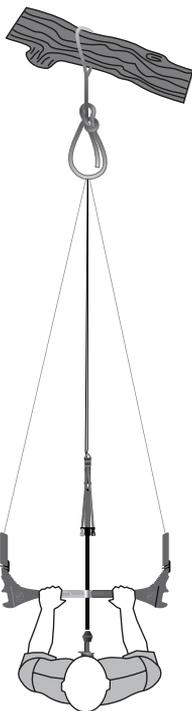
- ・ハンドルをライダーの体方向に必要量引き下げます（FIG1）
- ・必要量を引き下げた状態で、クリートの歯にシートが噛むよう、デパワーメインラインと平行になる方向にハンドルを引き下げます。

パワーアップするには：

- ・ハンドルをライダーの体方向に引いてシートをクリートの歯から外します（FIG1）
- ・クリートの歯から完全にシートが外れるように外側にハンドルを移動します（FIG3）
- ・希望に応じた長さになるまでシートを緩めていきます
- ・クリートの歯にシートが噛むよう、デパワーメインラインと平行になる方向にハンドルを引き下げます。（FIG2）



セッティング：ラインの長さのチェック



ラインの長さのチェック

カブリナのコントロールバーにはフライングラインがセットされていますが、海上に出る前に1Xのラインの長さをチェックすることをお勧めします。下記の手順で行ってください:

- シート(ロープやコード)の切れ端などを木やフェンスの杭などに巻き付けます。
- シートの端が余るように、シートを木や杭に結び固定します。
- 杭の所からフライングラインを伸ばし、バーから杭を見て、白のコントロールラインが左に、黒のコントロールラインが右になるよう、コントロールバーを上向きに地面に置きます。バーと杭の間に障害物がないことを確認してください。フロントラインは4本のコントロールラインの真ん中に置くようにします。
- フライングラインにねじれや交差がないことを確認してください。
- フライングラインの端(杭側)を見ると、リア(後ろ)ステアリングラインとフロント(前)デパワーラインにアイレットがあることが分かります。フロントデパワーラインの端には結び目もあり、これはカイトと正常に接続するために必要なものです。必要に応じて付属のねじ回しを使いアイレットを緩めます (FIG1)。
- 杭に結びつけたシートをすべてのラインのアイレットに通します。この時、黄色のラインは左側、黒のラインは右側の位置を保つようご注意ください (FIG2)。
- すべてのラインが輪の内側にある状態で、シートをもやい結びにします。
- コントロールバーの所に戻ります。
- カイトをフルパワー仕様でセッティングするために、センターライン調節ストラップ/クリートが完全に伸ばされていることを確認してください。
- 杭とまっすぐになるように立ち、後ろに体重をかけながら強くコントロールバーを引きます。
- その際、コントロールバーは肩の高さに地面と平行になるように持ってください。
- 力を加えているときにすべてのラインに均等に力がかかっていなければなりません。(デパワーラインにもステアリングライン、フロントラインにもたるみがない状態)
- コントロールバーを左右平行に引くことができるようなら、コントロールシステムはインフレータブルカイトに取り付けることができます。



FIG 2

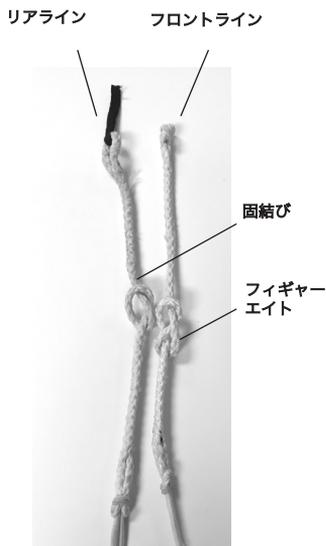


コントロールバーが均等な場合、カイト付属のマニュアル内セッティングの『カイトへの空気の挿入』を参照
コントロールバーが均等でない場合、次ページのインストラクションに沿って操作してください。セッティング『ラインの調整』

セッティング：ラインの長さの調整

ラインの長さのチェック

- ラインの長さの調整はカイトに接続しているフロントラインの端かバーフポートに接続されているリアラインで行ってください。
- ステアリングラインの1本が長い時は固結び（25mm調節）かフィギュアエイト（40mm）を行います。ラインが短すぎる場合は、他方のラインに結び目を作ります。
- リアラインも同じように調節します。
- バーエンドにあるカセットを引きます（FIG1）。
- 調節用の結び目が出てくるまでリーダーラインを引きます。ラクヘッドループを緩めたり動かしたりすることで長さの調節ができます（FIG2）
- バーエンドにあるフポートにリーダーラインを収めます。長さのチェックを行います（FIG3）。
- 4本のラインが均等にバランスよくバーと繋がるまで同じ作業を繰り返します。
- フライイングラインに結び目を作らないでください。



オーバードライブバーの調整

オーバードライブバーの調整

オーバードライブバーには、異なるカイトサイズやライディングスタイルに対応するよう、バーの長さを変更するシステムがっています。

オーバードライブの操作方法

外側から内側への変更

- バーに砂がついていないよう、真水ですすぎます。
- バーエンドにあるカセットを取り出します (FIG1)。
- カセットを180度回転させることで、カセット内のライン同士の距離が短くなることを確認します (FIG2、3)。
- カチッと音がするまでカセットをバーに差し込みます (FIG4)。
- バーエンドの逆側も同じ手順で作業します。



内側から外側への変更

- バーに砂がついていないよう、真水ですすぎます。
- バーエンドにあるカセットを取り出します (FIG1)。
- カセットを180度回転させることで、カセット内のライン同士の距離が短くなることを確認します (FIG2、3)。
- カチッと音がするまでカセットをバーに差し込みます (FIG4)。
- バーエンドの逆側も同じ手順で作業します。



注意：使用前にバーエンドの機能が正しく作動していることを確認してください。適切な箇所にロックがかかっていることを確認してください。（左右ともに同じ側、外/外、内/内で使用してください）。

オーバードライブのメンテナンスとケア

- オーバードライブ1Xはひんぱんに真水ですすぎてください。バー全体を水をいれたバケツに入れ、5分ほど放置します。水の中に入れていた間にカセットを取り除き、砂を洗い流してください。収納前にオーバードライブ1Xを完全に乾燥させます。
- ライディング前に全てのオーバードライブのパーツに砂がついていないことを確認してください。
- オーバードライブ・バーエンドを長持ちさせるために、バーエンドから上部セクションまで真水で十分にすすぐことを習慣にしてください。

カイトのチューニング

最高のパフォーマンスのためにカイトを正しくチューニングすることは必須です。きちんとチューニングされたカイトはスピードや効率がアップされ、正しくデパワーします。以下のガイドはそれぞれのライディングスタイルに合わせたチューニングをする手助けをします。

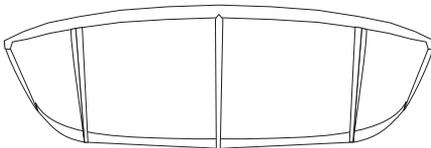
- ステアリング（リア）ラインとフロントラインに正しくテンションをかけることによって、全てのモデルでデザイン通りのスイートスポットを生みます。トリムシステム（リコイルカトリムライト）を少し調節することでカイトを正しくチューニングすることができます。
- システムの稼働範囲内で十分にデパワーするためには、バーのデパワーの範囲にCASがなくてはなりません。腕をいっぱい伸ばし、腰を曲げて乗っている状態ならば、白いハンドル（CAS）カトリムハンドル（TL）を引いてバーが体に近い位置に来るように操作します。
- カイトはシーティング引き具合に敏感に反応します。バックラインにテンションがかかりすぎている場合、カイトはスピードを落とすか微風では後る向きに飛行することもあります。シーティングを引き過ぎた状態では、デパワー性能がショットダウンに必要な量を最小にすることにもなります。
- シーティングを引きすぎないでください。カイトが上空で効果的に飛行することができるようになりますが、カイトの最大パワーを変えるからです。より強いパワーと素早いターンはステアリング（バック）ラインのテンションによって生まれます。この状態はカイトを引き込んでいる状態と言えます。しかしそれと合わせて不都合な点も生じます。バックラインにテンションがかかりすぎると、上空にあるカイトのスピードが落ち、パワーウインドウの端でカイトを飛行させることができなくなります。
- カイトが頭上にある状態でハーネスループを引き込み、シーティングをいっぱいに緩めます。シーティングを引きすぎている場合、カイトはウインドウに戻ります。

ロフティングに注意が必要です。長い時間カイトを頭上に保って置くことはこの現象のリスクを高めることとなります。リフトを感じたらすぐにシートアウトしQRSを起動する準備をしてください。

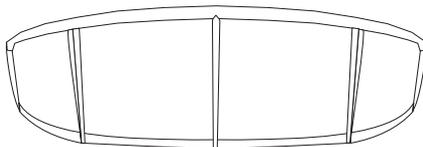
- トリムシステムを引くことで、カイトを希望の状態までデパワーします。トリムシステムを引けば引くほど、カイトのパワーは少なくなります。バーの引き込みを止めることででもデパワーできるため、トリムシステムでデパワーしすぎないことを頭に入れて置いてください。パワーアップするためには黒い調節レバーを引くかシートをクリートから外して調節します。

ライダーの視点から見たカイトの状態：ライダーの頭上、ニュートラル・ポジションにあるカイト。

シーティングを引きすぎたウイングチップ >>
(バックラインのテンションが強すぎる)



正しいトリム >>



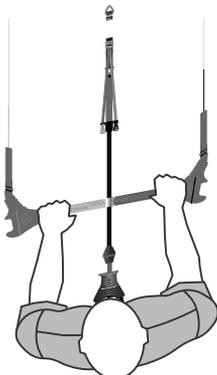
カイトのステアリング

▲WARNING

以下は覚えて操作できるようにならなければいけないテクニックのリストの一部です。常にプロのインストラクターからレッスンを受け、体得するようにしてください。

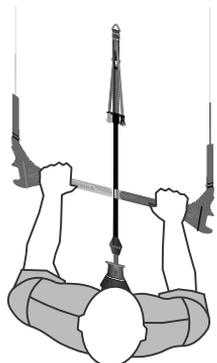
覚えておきたいキーポイント

- ▽ 陸上でカイト操作を練習している場合、カイトには非常にパワーがあるということを頭に入れておいてください。安全に十分に留意してください。まずカブリナのトレーニングカイトを使い、カイトの操作方法を体得し、その技術を充分にあげることをお勧めします。その後パワーカイトを使って、海上でボディドラッグを練習しましょう。
- ▽ 最初にカイトを飛ばす練習をする場合、カイトから目を離さないようにしましょう。
- ▽ ゆっくり操作しましょう。コントロールバーを急激に動かさないようにしてください。
- ▽ カイトのパワーを絶えず充分に考慮してください。
- ▽ 決して車のハンドルのように、コントロールバーを操作しないでください。カイト操作を困難にし、操作不能に陥る可能性があります。



カイトを左に移動させる方法

- 手を肩幅に広げ両手でバーを持ちます。
- カイトから目を離さない状態で、左手を身体に近付けるようにコントロールバーを少し引きます。
- これは左ひじを曲げ、右ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。
- カイトを別の方向に操作するための準備をします。



カイトを右に移動させる方法

- 手を肩幅に広げ両手でバーを持ちます。
- カイトから目を離さない状態で、右手を身体に近付けるようにコントロールバーを少し引きます。
- これは右ひじを曲げ、左ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。
- カイトを別の方向に操作するための準備をします。

カイトのセッティング

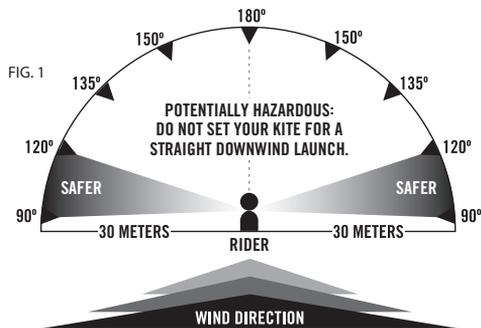
カブリナカイトをセッティングするにはカブリナのホームページcabrinha.comを参照してください。

自分のカイトに会うコントロールシステムがわからない場合、ホームページ上のカイト／コントロールシステム適応表で確認してください。

ランチング

パートナーとのランチング

- ランチングする前にクイックリリース・システムを使いこなせるようにし、必要なときに動作できるようにしてください。これらのシステムがきちんとセッティングされていることを確認してください。
- 次にラインやギア、ランチング/ランディング場所をチェックし、それが万全ならばカイトをランチングする準備は完了です。カイトのランチングに影響するので、カイトにしっかりと空気が入っていることを確認してください。カイトのリランチング性能に違いが生じます。
- ランチングする前にパートナーとライダーの双方が理解できる、リリースの時の合図を確認します。
- パイプスリーシュを接続箇所に接続します。
- 安全ピンをセットします。
- 風下100度のところにカイトを持ってパートナーに立ってもらいます(FIG1)。
- パートナーにはリーディングエッジの中央を持ち、リーディングエッジが垂直に風に向かうようにします。
- パートナーはカイトの裏側に立ち、カイトの横や前に立たないようにします。
- パートナーが決してプライダグルやフライングラインに触れないよう、注意してください。
- コントロールバーを胸の高さに持ち、フライングラインのたるみを取り除くために数歩後ろに下がります。
- カイトを離すよう、パートナーに合図します。カイトがパートナーの手を離れた瞬間からライダーがカイト操作を行います。
- 注意/パートナーはカイトを上空に投げてはいけません。上空に投げられたカイトはその性能を発揮することができず、通常通りのランチングをすることができません。その際カイトは強すぎるパワーを発するか全くランチングしない状態になります。この方法は危険なランチングです。
- カイトを離したパートナーは、ライダーの風上に移動し、ライダーの妨げとならないようにします。
- ゆっくりとカイトをパワーウィンドウの端に移動するよう操作します。急激な動きは避けましょう。十分にカイトをコントロールしながらゆっくりと移動させます。
- カイトがパワーウィンドウの端に到達したら、背中から風を受ける状態でゆっくりと水際に向かいます。その際カイトを絶えずチェックしましょう。いつでもカイトの動きを把握しておく必要があります。
- ランチングの際に少しでも不都合が生じた場合にデパワースするため、コントロールバーをライダー自身から遠ざける準備をしておきます。
- 注意:ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。



ランディング

パートナーとのランディング

1. ランチングする前にパートナーにカイトの正しいランディングについて説明しておきましょう。
2. ランチング前に必ずランディングに必要なスペースを確保しておきましょう。
3. 上の内容を確認したうえで、水際に向かうときにも、ランディングの場所に人がいないことや障害物がないことを確認します。
4. 特にライダーの風下、カイトの近くや下に何かある場合、ランディングしてはいけません。人やペット、電線、木、その他障害物がない場所にランディングしてください。
5. 波打ち際に近づく際には、カイトをパワーウィンドウの端で海面に近い低い位置に保ちます。
6. ボードから下りて波打ち際までの最後の距離はボディドラッグで進みます。スピードをつけて波打ち際に近付いてはいけません。
7. ゆっくりと風上のパートナーのところにカイトを移動させます。
8. パートナーは風上方向からカイトに近付きます。
9. カイトが地面に付きそうになったところで、パートナーはリーディングエッジの中央部分を掴みます。パートナーはランチング時と同じ箇所を持ってください。
10. パートナーはブライダルやフライングラインを持たないよう、注意してください。
11. パートナーがウイングチップやトレーリングエッジを持たないよう、注意してください。ウイングチップやトレーリングエッジを持たれたカイトはフリップやスピンなど、回転動作を行います。この状態のカイトは扱いにくく危険です。
12. パートナーはカイトのリーディングエッジを持った後、カイトを持ったまま波打ち際から離れます。
13. パートナーはカイトを持ち続けるか、あるいはパテンを地面につけリーディングエッジを風上にして置き、砂や砂袋を重りして安全をはかった状態で地面に置きます。
14. カイトを安全に地面の置いた後、ラインを巻きましょう。

リランチ

重要な注意:リーディングエッジをはじめ、すべてのパテンにしっかりと空気が入ったカイトは、海上でのリランチが可能です。水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。

- カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がリランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合はその動きに対する心構えが必要です。
- カイトがフェイスから海面に落ちた場合、リーディングエッジとパテンは水に浸かります。この状態からカイトをリランチの状態にするまでの操作をまづ行います。
- リア(後ろ)リーダーラインをライダーの身体方向に引きます。リーダーラインにコンスタントなテンションを加えてください。

注意:手にリーダーラインを巻かないように注意してください。また身体にもラインが巻つかないようにしてください。カイトのウイングチップを浮かせるためには1m強のリーダーラインを引く必要があります。

- ヒント:ボードに足を乗せて身体の前にボードを置いてください。これによって身体が前に動く速度が遅くなり、素早くリランチできるようになります。
- ウイングチップが浮いてきたら、カイトはじきにひっくり返ります。
- カイトがひっくり返った後、ウインドウインドウの端に移動します。操作を加えてカイトをウインドウの端まで移動させます。カイトをリランチする直前まで、同じリーダーラインを持った状態を保ちます。
- 風が弱いときなど、カイトがウインドウインドウの端に到達するまで時間がかかります。そうした場合でもカイトの動きを妨げるだけなので、我慢できずにバーの両側を引かないでください。左右どちらでも、最初に選んだ側のラインを持ちカイトが動くのを待ちましょう。
- カイト自体のリランチの準備ができたなら、リーダーラインを離しカイトを上空に上げます。ゆっくりとカイトを操作して上空に上げ、バーを水平に持ち上げましょう。また緊急時に備えてデパワーできるような準備しましょう。



メンテナンスとケア

時間の経過とともにコントロールシステムは磨耗します。システムをチェックし、適切なメンテナンスを行うことが重要です。

- セッションごとに開始前と後、バーをきれいにしてください。
- モジューラーまたはクイックループのリリースハンドルを開きます。
- 使用ごとに真水でシステムをすすぎ、砂や塩を取り除きます。全てのパーツの機能をチェックします。楚辺手のパーツにひび割れや擦れ、腐食、傷がないかどうか確認し、必要に応じてパーツ交換を行います。
- バンジーにかかる荷重を和らげるためリリースハンドルを閉めます。
- バーのカセットを取り外し。バーの内側にも真水を流します。
- コントロールシステム全体を真水で注ぐことがシステムの寿命を長くすることにつながります。

1. パーツ点検

通常の使用条件において、50時間ごとに以下のパーツの点検を行うことをお勧めします。

2. デパワーメインライン

このパーツはPUチューブに内蔵されています。クリートとスピニングハンドルの内側のラインに大きな磨耗がないかどうか確認します。ほつれがないかどうか確認します。必要に応じてパーツ交換します。

3. トリムライン

クリートの歯やブリー、ループツーループ接続部分のデパワーメインラインにほつれがないことを確認します。必要に応じてパーツ交換します。

4. ランディングライン

ランディングラインを取り外し、上下両方のループに磨耗がないかどうか、ライン全体もチェックします。きちんと伸縮できているかバンジーをチェックします。必要に応じてパーツ交換します。

5. ロワーフロントライン

カイトをステアリングしたりループさせるときに一番消耗するラインです。ラインや結び目、切れ目などにほつれがないことを確認します。必要に応じてパーツ交換します。

6. フライイングライン

ラインや結び目、切れ目などにほつれがないことを確認します。必要に応じてパーツ交換します。

7. ビッグテイル

結び目やループ付近で目立ったマモ区があるか確認してください。必要に応じてパーツ交換します。

8. リーダーライン

カセットを取り外し、カセットで見えづらい箇所を点検します。ライン全体もチェックします。カバーのひび割れにも注意し、ラインの磨耗に気をつけてください。必要に応じてパーツ交換します。

メンテナンスとケア続き

9. PUチューブ

チューブ全体にひび割れや切れがないかどうか確認します。必要に応じてパーツ交換してください。

10. リリースループ

リリースループの内側に凹みや傷、変形がないことを確認します。もし目に見える不具合がある場合はリリースピント接続パーツ全体の交換をオススメします。

11. ファイヤボール

ひび割れや磨耗、変形がないことを確認します。必要に応じてパーツ交換してください。

12. スライド

スライドの動きが正常であるかチェックします。自在に開閉ができることを確認してください。必要に応じてコネクター全体を交換してください。

13. スピニングハンドル

スピニングハンドル全体をチェックし、きちんと閉まっているか、ハンドルのくぼみが揃った位置にあるか確認します。ハンドルが固くなければしっかりと締め直し、止めネジがしっかりとハマっていることも確認します。

14. リコイル・トリムストラップ

トリムストラップのほつれやキレをチェックします。必要に応じてパーツ交換してください。

専門用語集

カイトボーディングや風に関して使われる言葉

カイトボーディング

パワーカイトを水上あるいは雪上で用いるスポーツ。

カイトサーフィン

パワーカイトを水上で用いるスポーツ。

コントロールバー

カイトを操縦するときにライダーが操作するパーツ。

インフレーター・カイト

浮力を持たせるように空気をいれたチューブのついたカイト。リランチェングが簡単に行えます。

ハーネス

ライダーとコントロールバーにあるループをつなぐ便利な道具です。これによってライダーは自分の体重を生かしながら、あまり力を使わずにカイトにぶら下がるようにライディングすることができます。もっとも一般的なのはウエストハーネス(胸部に着用するタイプ)とシートハーネス(腰部に着用し足の付け根に巻くタイプ)です。トレーニングカイト カイトボーディングに使用するカイトの動きをシュミレーションする陸上で使用する練習用カイト。非常に優れたトレーニング用の道具です。サイズは小さくても十分なパワーがあるので、使用時には注意が必要です。

ポンプ

カイトに空気を送るための道具 バー(ユニット) 圧力の単位・

1 bar = 14.PSI

・ 1 mbar = 0.015 PSI

リーディングエッジ(LE)

カイトの前方にある空気を挿入できるチューブ。

パテン

カイトの外側を被うファブリック製の部位。空気を挿入しカイトの骨組みとなる内蔵ブラダーを被います。

ブラダー

リーディングエッジとパテンに内蔵された空気を挿入するチューブ。(自転車のタイヤのように内側に空気を入れるチューブが入るシステムになっています)

スプリント

1カ所からスピーディに空気を挿入できる技術。

エア・クリップ

LEとパテンの間の空気を遮断しているクリップ。

エア・ディストリビューション・チューブ

LEブラダーとパテン・ブラダーをむすぶチューブ。エアロックは2つのパーツから成るバルブで、一カ所から空気を挿入したり抜いたりできるシステム。

シングルライン・フラッグ(SLF)

SLFはプライダルとコントロールシステムをシンプルに改良したシステムで、第2段階のデパワーをスムーズに行うことができます。

QRSクイックリリース安全システム

コントロールシステム上のクイックリリース箇所が動き、ハーネスループとコントロールシステムが離れるシステム。メインQRとも呼ばれます。

QR2

2番目のクイックリリースはクイックリンク本体にあり、1Xタワーからランディングラインを外す時に使います。これによりカイトがライダーから離れます。

クイックリンク

クイックリンクはモールド加工のハーネスループ本体とQR2ピンから成ります。ライダーが素早く効果的に1Xコネクターを1Xタワーに再接続できるシステムです。

バイパスリシュシステム

初めてカイトボーディングする人やスクールなど、ハーネスループを使えない人にお勧めの安全なリシュです。

プライダル

カイトのウイングチップとリーディングエッジから下がっているライン。カイトとコントロールバーをつなぐために用いるフライングラインはこのプライダルに結びます。

トウ・ポイント

プライダルの接続箇所

リーダールイン

コントロールバーに直接つけるライン。バーとフライングラインを接続するために使います。

フライングライン

カイトに付いてくる4本すべてのラインの総称です。このラインはカイト付属のプライダールインとコントロールバー付属のリーダールインを結んでいます。通常20-30mの長さがあります。

ステアリングライン

カイトのトレーニングエッジにあるブライダルから出ている外側に付いた2本のフライングラインのこと。一方はカイトの左のウイングチップから、もう一方は右のウイングチップから伸びます。

デバワーライン

中央に接続されている2本のフライングラインで、一方は左のウイングチップから、他方は右のウイングチップのリフティングエッジから伸びます。このラインはカイトのデバワー機能に働きます。

センターライン調節ストラップ(CAS)

フロントラインとバックラインの長さを変えることによってカイトをデバワーさせるときに使用します。またバーの位置をライダーに近づける時にも使用します。

第2段階のデバワー

1Xを使いライダーがカイトを水上からひとりランチングできるシステム。

リコイル

回転ストリック後、ライダーがねじれをほどくときに、バーを一定の位置に保つことができる便利なシステムです。またバンジーアジャスターに加重をかけ、ライダーが届きやすい位置にバーを保つ働きます。

ニュートラルポジション

ライダーの頭上ほぼ真上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを高く持ち上げると、カイトは自動的にニュートラルポジションに移動します。しかしこのポジションにカイトを保つことは難しく危険です。このポジションにあるカイトは安定していてパワーがないように感じられますが、地上にいるライダーをリフティングする可能性の高いポジションです。海上にいる時はボードを手繰り寄せている間に使いやすいポジションですが、陸上にいる時には極力このポジションを使用しないでください。ランチング後は素早く海上に出て、このポジションを避けることをお勧めします。陸上でのこのポジションは大変危険です。

ニュートラルゾーン

ニュートラルポジションを中心に左右に幅を広げたエリア。飛行を開始するためにカイトを風上方向に向けるためのエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーや引く力が劣ります。しかし陸上やガスティなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注

意が必要です。パワーゾーン ライダーの前あるいは横にあたるこの位置のカイトは、ニュートラルポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーは、できるだけこのエリアでカイトを使用することを避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

リフティング

リフティングはカイトがライダーの頭の上にある時、ニュートラルポジションで起ります。安定しない風によって突然ライダーを持ち上げる垂直な力をかかります。

ランチング

パートナーの手からカイトを上空に上げるライダーの動作です。

リランチング

水面に落ちたカイトをライダーが操作し、再び上空に戻すこと。

ポテイドラッグ

水上にいるライダーがカイトを上空に上げながらボードを使わないテクニック。カイトの飛行を練習するために、ランチング後波打ち際まで歩き、海上で身体をカイトにひっぱってもらいます。カイトの飛行とリランチング、自己レスキューの方法を学びます。

ウォータースタート

ライダーが水中から立ち上がり、ボードに乗ること。

ジャイピング

ライダーが乗っているボードの走っている向きを変えること。スタポータックからポータックに、またその反対に移ること。

プレーニング

ボードが氷面を滑走する状態。

ランディング

カイトを水面および雪面に着陸させる行動。

オーバーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが弱すぎる状態。

専門用語集

リーチ

風向きに相対するカイトが動く方向。通常は風下に対して60から160度の方向。

ブロー

風(ブロー)が抜けた箇所。ガスティなコンディション風が特に強く吹いている状態を指す言葉。

ラフ

風(ブロー)が抜けた箇所。ガスティなコンディションでブローが抜けた風の弱い状態のことを言います。またカイトが完全にデパワールした状態にあることも言います。

サイドショア

陸に向かって左もしくは右から吹き、岸と平行に吹く風。カイト・ボーディングに理想的な風向き。

オンショア

水面から陸に向かって真正面から吹く風。この風向きの場合は水上や水際でのカイトの使用は禁止です。

サイドオンショア

水面の左もしくは右から陸に向かって吹く風。オンショアとサイドショアの中間の風向き。水面あるいは波打ち際でカイトを飛行させてもいい風向き。

オフショア

陸から水面に吹く風。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

サイドオフショア

陸の左もしくは右から水面に向かって吹く風。オフショアとサイドショアの中間の風向き。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

ガスティ

風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

ダウンウインド

風下。風が吹いていく方向。

アップウインド

風上。風が吹いてくる方向。

リウォード

カイト・ボーダーの風下側。

ウインドウォード

カイト・ボーダーの風上側。

ノット

スピードや風速の単位。海里に基づき計算されます。1ノット=1時間で1海里(1.852m)進む速さ。1ノット=1.15mph 1ノット=1.85km

MPH

スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。1mph=1時間で1マイル(1,609m)進む速さ。

ビューフォート風力級

風が起こす諸現象(波の様子、煙りの流れなど)によって階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機械はありません。(0=なぎ~12=台風)